

I 点検・評価制度の概要

1. 事務の点検・評価の考え方

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に伴い、平成20年度から、教育委員会の権限に属する事務の全てにおいて、その管理・執行状況について点検及び評価を行なうこととなりました。

南部町教育委員会としては、これまでも本町の教育の発展のため様々な事業に着手し、その結果等を踏まえて改革に取り組んできたところであります。

政策効果を把握し、必要性、効率性等の観点から自ら評価を行い、その結果を公表することは、政策立案を的確に行うと共に住民に対する説明責任を果たす上で重要なことであります。そのような観点から、法の趣旨にのっとり具体的な内容の評価・点検を行うこととしました。

【参考】

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(抄)

(教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価等)

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務「前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長権限に属する事務（同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。」の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

平成20年4月1日改正

2. 具体的な事務の点検・評価の方法

次の二項目に分類しました。

1. 教育委員会の点検評価
 - ・教育委員会の活動
 - ・教育委員会が管理執行する事務
2. 教育委員会各課の事務の点検及び評価の結果

3. 達成度の評価 5つの分類

- 5 極めて満足である (順調に達成している)
 - 4 満足である (概ね順調に達成している)
 - 3 普通 (達成見込みだが若干課題がある)
 - 2 不満足である (順調でない)
 - 1 極めて不満足である (達成しなかった)
- 評価しがたいもの

Ⅱ 教育委員会の活動

1. 教育委員の構成

南部町教育委員（平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）

職 名	氏 名	任 期	備 考
委 員 長	尾 山 幹 雄	平成 20 年 5 月 1 日 ～平成 24 年 4 月 30 日	委員長就任 平成 23 年 5 月 10 日
委 員 長 職務代理者	若 林 一 明	平成 21 年 5 月 1 日 ～平成 25 年 4 月 30 日	委員長職務代理者就任 平成 23 年 5 月 10 日
委 員	近 藤 敬 子	平成 23 年 5 月 10 日 ～平成 27 年 5 月 9 日	
〃	佐 野 浩 道	平成 23 年 5 月 10 日 ～平成 27 年 5 月 9 日	
教 育 長	望 月 康 秋	平成 22 年 5 月 1 日 ～平成 26 年 4 月 30 日	教育長就任 平成 22 年 4 月 1 日

2. 教育委員会の活動状況

(1) 委員会議の開催状況

南部町教育委員会の会議は原則として公開する。また毎月 1 回の定例会のほか、必要に応じ臨時会を開催している。

この会議において、5 名の教育委員（教育長 1 名を含む。）が教育行政の運営の基本方針や教育委員会の規則の制定改廃など、会議において議決を要する事項について審議・決定を行うとともに、重要事項について事務局から報告を受けている。

平成 23 年度の教育委員会会議の開催状況は次のとおりである。

会 議	開催日	議案件数	報告件数	その他
平成 23 年 定例会第 4 回	4 月 18 日	3	2	2
臨 時 第 2 回	5 月 10 日	3	4	1
定例会第 5 回	5 月 20 日	2	1	0
〃 第 6 回	6 月 28 日	1	2	7
〃 第 7 回	7 月 22 日	1	3	1
臨 時 第 3 回	8 月 9 日	1	0	0
定例会第 8 回	8 月 22 日	2	3	1
〃 第 9 回	9 月 26 日	2	5	0
〃 第 10 回	10 月 21 日	2	3	1
〃 第 11 回	11 月 21 日	2	4	0
〃 第 12 回	12 月 22 日	1	1	1
平成 24 年 〃 第 1 回	1 月 24 日	2	2	0
〃 第 2 回	2 月 26 日	5	1	4
〃 第 3 回	3 月 21 日	2	1	4
合 計		29	32	22

(2) その他の活動状況

教育委員は、教育委員会の会議への出席以外に、町議会への出席、各会議、関係行事等へ出席している。平成23年度における主な活動は次のとおりである。

- ・山梨県町村教育長会 ・山梨県教育委員会連合会
- ・峡南地区教育委員会連合会総会及び研修会
- ・南部町教育委員先進地視察研修 ・学校訪問
- ・各小中学校入学式 ・卒業式
- ・各小学校運動会 ・中学校学園祭
- ・町民体育祭 ・成人式典 ・町内一周駅伝大会
- ・各中学校閉校記念式典
- ・その他各種イベント事業への出席

Ⅲ 教育委員会が管理執行する事務

- (1) 教育行政の運営に関する一般方針を定めること。
 - ・該当なし。
- (2) 学校その他の教育機関の設置、廃止及び位置の変更に関すること。
 - ・南部中学校、富河中学校、万沢中学校が平成23年3月31日付けで閉校となった。平成23年4月1日、南部中学校が開校した。
所在地：南部町南部8,746番地
- (3) 教育委員会規則及びその他の重要な規定の制定及び廃案すること。
 - ・南部町立小中学校管理規則の一部改正
 - ・南部町体育指導員会設置規則の一部改正
 - ・南部町スポーツ振興審議会条例の一部改正
 - ・南部町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償条例の一部改正
- (4) 教育予算その他の議会の議決を経るべき議案の原案を決定すること。
 - ・予算等原案を了承される。
- (5) 県費負担の教職員の懲戒に関すること。
 - ・懲戒処分なし。
- (6) 県費負担の教職員の人事の内申に関すること。
 - ・人事異動に際し、27名の異動の内申を行なった。
- (7) 教育委員会の所管する各種委員会の委員の任命及び委嘱に関すること。
 - ・学校給食共同調理場運営委員会 委員17名
 - ・学校評議員 委員18名
 - ・南部中学校校旗・校章制定検討委員会 委員8名
- (8) 文化財の指定及び指定解除すること。
 - ・指定及び指定解除なし。
- (9) 教科書採択の決定に関すること。
 - ・H24年度使用の中学校教科書の採択を行った。

- (10) 陳情・要望等に関すること。
 - ・要望書 1 件
- (11) 勤務評定に関すること。
 - ・校長 5 名の勤務評定を行なった。

IV 各課の事務の点検及び評価の結果

1. 学校教育環境の充実（学校教育課）

(1) 学校教育施設・環境の整備

① 学校適正規模の推進

* 事業概要

小中学校適正規模適正配置により、町内の 3 中学校を平成 23 年 3 月末にそれぞれ閉校し、4 月から統合した新南部中学校がスタートした。

* 成 果 [評価 5]

平成 23 年 4 月 1 日より新南部中学校として、既存の南部中の校舎と敷地を利用して開校した。南部中学校の新しい校歌は、平成 22 年 10 月 27 日に検討委員会を立ち上げ、引き続き検討を重ねた。また校旗・校章についても 5 月 10 日に検討委員会を立ち上げ協議した結果下記のとおり決定した。

平成 23 年 11 月 26 日に南部中学校 校歌校章制定・校旗の樹立式が同校体育館で举行された。また同日を南部中学校の創立記念日として制定した。

また、廃校となった中学校の備品等の販売会を平成 24 年 3 月 11 日(日)に富河中学校で開催したところ、受付人員 200 人(町内者限定)、売却個数 549 点、売却額 431,700 円であった。

- ・新南部中学校 開校式 平成 23 年 4 月 7 日 (木)
- ・南部中学校 校歌制定検討委員会 継続協議
- ・南部中学校 校旗・校章制定検討委員会 立ち上げ

- ・南部中学校 校歌校章制定・校旗樹立式 平成 23 年 11 月 26 日(土)
 - 校歌：作詞 谷川 俊太郎 作曲 久石 譲
 - 校章：南部中学校 3 年 芦川 日和さんのデザイン

- ・廃校備品販売 平成 24 年 3 月 11 日(日)開催
 - 受付人員 200 人(町内者限定)、売却個数 549 点、売却額 431,700 円
 - ピアノ 4 台・・・4 社による査定により一番高額であった「ウエダ楽器(長野県上田市)」に 510,000 円で売却。総合計 941,700 円であった。

* 課 題

跡地利用として、地域と協議を重ねる中で町の方針を決めていく。

富河中学校、万沢中学校校舎はそれぞれ平成 24 年 4 月より管理は町長部局へ移管された。また、富河中学校の体育館、グラウンド及び万沢中学校体育館は、社会体育施設である為生涯スポーツ課が管理を行う。

② 学校施設環境整備事業

* 事業概要

より良い環境を維持するため、施設整備を実施する。節電対策として、「デマンド監視システム」を導入し、電力使用状況を把握することにより節電の徹底を図る。

* 成 果 [評価 4]

[小中学校施設の維持管理] 明許繰越事業『地域活性化・きめ細かな交付金事業』

・睦合小学校普通教室等冷暖房設備工事	11,628 千円
・栄小学校普通教室等冷暖房設備工事	6,250 千円
・富河小学校普通教室等冷暖房設備工事	7,945 千円
・万沢小学校普通教室等冷暖房設備工事	8,610 千円
・南部中学校普通教室等冷暖房設備工事	16,035 千円

* 課 題

限られた予算の中、各学校の改修を計画的に進める必要がある。

③ 地域ぐるみ学校安全整備事業（スクールガードリーダー）

* 事業概要

子どもたちが安心して教育を受けられるよう、家庭や地域の関係機関・団体と連携しながら、学校の安全管理に関する取り組みを実施することを目的とする。

本町では、平成17年10月より1名のスクールガードリーダーを委嘱し、小学校4校に対して登下校の際の子どもへの指導、見守り隊への指導、通学路の安全確認等を実施している。

スクールガードリーダーは、主として学校周辺を通学時間帯及び下校時間帯にそれぞれ2時間程度、4小学校を曜日変わりで巡回している。

* 成 果 [評価 5]

事業を開始してからは特に問題等は起きておらず、この事業の効果は大きい。

* 課 題

各学区の見守り隊と連携し効果的に事業を進めているので、今後も子どもたちの安全確保のため継続していきたい。

④ 日本スポーツ振興センター災害給付金事業

* 事業概要

各小中学校に在学する児童・生徒の不慮の災害に備えて、独立行政法人日本スポーツ振興センターと災害共済給付契約を結び、学校の管理下において児童生徒が災害に遭った場合、その治療費や見舞金の給付を保護者に対して行う制度。町では全校児童生徒がこの制度に加入しており、その共済掛金は町が負担している。

- ・共済掛金合計額 533,530 円（対象：小学校 380 人、中学校 192 人）
- ・実績（給付金合計）640,970 円（対象：小学校 27 件、中学校 49 件）

* 成 果 [評価 ー]

町では中学3年生まで医療費助成制度があるが、この災害給付金制度では「療養に伴って要する費用として加算される分（1/10）」があり保護者にとっては有利である。学校でもその点を説明し、この制度の利用に努めている。

*** 課 題**

学校では子どもの安全確保に努めているが、この制度は長期休暇中にも対応できるため、不慮の災害に備え保護者に対して安心を与えられるということが有効である。

⑤ スクールバス運行事業

*** 事業概要**

中学校の統合により、富河・万沢地区には通学に利用できる公共交通機関がないため、長距離通学を余儀なくされる生徒に対してスクールバスを運行する。また、学校と居住地が遠く離れている井出・十島地区の児童生徒及び通学路（国道）が危険な楮根・朝日地区児童も、スクールバスで登下校をサポートしている。

*** 成 果 [評価 4]**

- 1) 富河地区の生徒の輸送（62名）
- 2) 万沢地区の生徒の輸送（21名）
- 3) 井出・十島地区の児童生徒の輸送（31名）
- 4) 楮根地区の児童の輸送（17名）
- 5) 朝日地区の児童の輸送（7名）

児童生徒の通学にかかる負担を軽減している。

*** 課 題**

スクールバス利用による児童生徒の体力低下が懸念される。
輸送範囲の拡大化が懸念される。

⑥ 遠距離通学費補助事業

*** 事業概要**

学校と居住地が遠く離れている寄畑・井出・十島地区から、J Rを利用して通学する児童・生徒の回数券・定期券購入の補助を行っている事業。

（対象校：栄小・南部中）

補助金は、基本的に児童・生徒の保護者に対し交付する。

決算額（学校毎）

栄小 → 5,020円（電車：J R回数券）

南部中→ 370,620円（電車：J R定期券）

学校毎の対象者数

栄小 （寄畑0名、井出11名、十島8名）

南部中（寄畑0名、井出5名、十島7名）

*** 成 果 [評価 5]**

保護者の経済的負担もなく、安全に登下校できている。

*** 課 題**

交通機関の利用者数は年々減少しているが、中学校の統廃合によりスクールバスの運行が充実しているため、J Rの利用は減りつつある。現在の中学校のスクールバスや町営バスの運行を学校の始業・終業時刻に合わせる等の再検討が必要となっている。

⑦ 学校給食共同調理場運営事業（南部給食センター、富沢給食センター）

* 事業概要

安心で安全な栄養面も十分に配慮された美味しい給食を提供することにより、子どもに望ましい食習慣を身につけさせることを目的に、共同調理場を設置している。

また、調理施設の維持管理や衛生面の充実に努めるほか、給食費負担金の収納確保にも取り組んでいる。

- ・南部地区：南部共同調理場 477食（栄小、睦合小、南部中）
- ・富沢地区：富沢共同調理場 191食（富河小、万沢小）

1) 学校給食費負担金

歳入決算額 32,874,506円

小学校 月額4,300円（年額 47,300円）

中学校 月額4,800円（年額 52,800円）

上記の給食費に対して、町から1割相当額を上乗せ補助している。

2) 学校給食運営費（決算額）

歳出決算額

南部共同調理場 59,050,111円

（内、賄材料費 26,607,409円）

富沢共同調理場 36,970,190円

（内、賄材料費 9,977,506円）

3) 学校給食提供日数

南部共同調理場 小学校194日、 中学校191日

富沢共同調理場 小学校194日、

* 成果〔評価 4〕

給食費の1食単価については、昨年度町内で統一された。（小学生 265円、中学生 300円） 町からの補助や給食回数上限を定めたことにより、安定した献立内容で理想とする給食を提供することができた。

また、平成19年度「地域に根ざした学校給食推進事業」及び平成20年度「子どもの健康を育む総合食育推進事業」という2年に亘る文部科学省の指定研究委託により、学校給食に地産地消を取り入れている。町内JAの協力をいただき、地元生産者との生産者部会を定期的に開催し、季節感や風習に因んだ郷土料理や旬の野菜等を献立に加え、献立内容の充実につながっている。

* 課題

児童生徒数の減少や中学校の統合による学校数の減により、2ヶ所の調理場での食数にも差が生じている。合併以来、懸案であった2か所の調理場を統合することにより効率的運営かつ経費節減を図る必要がある。

今後、統合に向けて耐震改修工事を済ませている富沢調理場を、平成24年度中に改修を行い統合を推進するものである。

⑧ 学校給食費助成補助事業

* 事業概要

少子化対策ならびに子育て支援育成に資することを目的として、義務教育対象の子どもが3人以上いる町内在住の保護者に対し、第3子以降の給食費が無料となる。ただし、未納及び滞納のない世帯が対象である。

対象世帯数：24世帯 助成金額合計 1,135,200円

* 成果〔評価 5〕

対象者に通知し申請を促しているが100%の方がこの制度を利用しており、好評を得ている。学校給食費に関心を持つきっかけとなり、納入に貢献している。

* 課題

子育て支援には成果があると思われる。しかし少子化のため対象者は年々減りつつあり、少子化対策にどこまで貢献しているか疑問が残る。

(2)学校教育内容の充実

① 小中学校特別支援教育支援員配置事業

* 事業概要

小・中学校において、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対して支援員（非常勤職員）を配置し、学校生活の支援を行う。

〔特別支援教育支援員〕

障害等により特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対し、学校生活を送るために必要な支援を行う。

対象児童3校25名、生徒1校4名

〔日本語指導支援員〕

日本語が不自由な国籍の児童生徒に対し、日本語や生活習慣の指導等を行い、学校生活を送るために必要な支援を行う。

対象児童1校2名

* 成果〔評価 4〕

〔特別支援教育支援員〕

- ・学級担任と支援員との連携により、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対し、障害や実情等に応じた適切な支援を行うことができた。
- ・学級担任の負担を軽減することができ、学級担任による他の児童生徒への指導の充実、円滑な学級運営を図ることができた。

〔日本語指導支援員〕

- ・外国籍児童生徒が編入した学校における本人や周囲の様々な不安を取り除き、早い時期に日本の習慣に慣れさせることで、安定した学校生活を送ることができるようになった。
- ・児童生徒間の交流を促進する担い手となり、異文化に対する興味・関心を高めたり、理解を促進したりすることができた。

*** 課 題**

専門的な支援員の人材確保が課題である。

また、今後さらに支援を必要とする児童生徒が増加すると予想されるが、予算措置も課題となる。

② 要保護及び準要保護児童生徒への就学援助事業

*** 事業概要**

経済的理由等により就学が困難な児童・生徒の保護者に対し、学校でかかる必要な費用(学用品費、修学旅行費、給食費等)を、認定基準額(所得の金額)に応じて認定審査を行った上、支給する。

区 分	対象者	援助額
睦合小(準要保護)	9 人	549,360 円
栄 小(〃)	6 人	414,950 円
富河小(〃)	10 人	659,560 円
万沢小(〃)	0 人	0 円
南部中(要保護)	2 人	0 円
〃 (準要保護)	16 人	1,699,300 円
計	43 人	3,323,170 円

対象者:児童扶養手当受給者(29 世帯 43 人)

要保護者:生活保護で対応

*** 課 題**

今後さらに援助を必要とする児童生徒(母子、父子家庭)が増加すると予想され、予算措置(町単独費用)が課題となる。

③ 心の教室相談事業

*** 事業概要**

心の教室相談員を町内の中学校に配置し、適切な教育相談や基本的な生活習慣等の指導を行い、悩みや不安、ストレスを解消する。

*** 成 果 [評価 4]**

より身近なところに相談できる場があり、生徒達の悩み、不安、ストレスが和らぎ、心にゆとりを持てるようになることは、生徒が充実した学校生活を送ることに繋がっている。

*** 課 題**

生徒からの相談を待つのではなく、相談員が積極的に多くの生徒と接触し日常的な会話の中から生徒が抱える諸問題について、担任、養護教諭、関係機関、教育委員会と連携していくことから、早期対応が図られ未然防止の効果も高くなると思われる。

④ 中学校外国語指導助手設置事業

* 事業概要

語学指導を行なう外国青年招致事業（JETプログラム）より配置している外国語指導助手（ALT）1名、民間派遣（㈱インタラック）1名の全2名で南部中学校へ指導している。

* 成果 [評価 4]

生きた英語に数多く触れることで、英語学習への意欲・関心が向上し、英語を聞く・話すといった基礎的なコミュニケーション能力を高めることにつながる。

また、異文化についての意識が高まることにより、国際理解教育の推進が図れる。

* 課題

JETのALTは、在任期間が限られているので、慣れた頃には帰国してしまう。
ALTの資質・力量の違い（自治体はALTを選べない）

⑤ 小学校外国語指導助手設置事業

* 事業概要

小学校学習指導要領において、5年及び6年において「外国語活動」が位置付けられ、英語を取り扱うことを原則とし、外国語指導助手（ALT）民間派遣（㈱インタラック）1名が、町内4小学校において、英語の授業を行なっています。

* 成果 [評価 4]

児童の英語に対する関心が高まり、抵抗感もなくなり意欲をもって学習に取り組めるようになった。

* 課題

外国語活動として実施するのは5・6年生だけであるが、1～4年生もその必要性を充分認識し、低学年からALTによる外国語活動に触れさせることも検討すべきである。

⑥ 私立幼稚園就園奨励費補助事業

* 事業概要

私立幼稚園の設置者が幼稚園教育の振興に資するため保育料等の減免をする場合に、町が町内に住所を有し当該幼稚園に在園する幼児の保護者に対し家庭の所得状況に応じて保護者の経済的負担の軽減を図るための奨励費を設置者に交付する。

現在南部町では、私立南部みどり幼稚園に交付している。

- ・減免対象児童数 36名
- ・決算額 547,000円

* 成果 [評価 4]

今年度は経済状況の悪化のせいか例年に比べ低所得階層世帯が増加した。保護者への負担軽減に貢献することができた。

*** 課 題**

この事業は南部町独自の基準で行っているが、平成20年度の国庫補助制度改正を参考に補助率の見直しを行っている。今後も国庫補助制度に倣いつつ、都度見直していく必要がある。

⑦ 学校評議員制度の実施

*** 事業概要**

地域に開かれた学校づくりをより一層推進するため、各学校に学校評議員を置き、保護者や地域住民の意見を幅広く聞き、学校と地域が連携しながら特色ある教育活動を展開する学校運営を推進する。

*** 成 果 [評価 4]**

各学校ではこうした機会に学校での教育活動について協議し、家庭・地域の提言や意見を取り入れるとともに、学校だよりなどにより学校の様子を知らせ、開かれた学校づくりに努める。

*** 課 題**

学校評議員制度による地域に開かれた学校づくりが、各学校でさらに定着することが課題である。

⑧ 山梨青森南部町児童交流会実施事業

*** 事業概要**

南部氏の縁に結ばれた、両県南部町児童が、互いの町の歴史や文化、身近な環境などふるさとの特色や学校等を紹介しあい、新しい時代の主役となる子どもたちの交流を深めるため毎年夏休み期間を活用し実施している。

*** 成 果 [評価 5]**

開催場所を青森県と山梨県、交互に行なっている。今年度は東日本大震災を受け、例年の山梨南部各小学校の児童訪問による交流に代わり、本年度は各校6年生が手紙や山梨南部町紹介ビデオの作品を届け、児童作品による交流を行い、南部中学生徒会による東日本大震災ボランティア活動を本事業に位置づけ、本年度独自の交流が行なわれた。

日 時	平成23年8月1日～3日（2泊3日） 交流作品の引き渡し式、交流会、ボランティア活動など
宿泊場所	チェリウス・ボランティアセンター
参加生徒数	南部中学校生徒会3人・引率教員等4名
事業費計	593,000円

*** 課 題**

青森県南部町では、児童交流事業を大切に捉えており、東日本大震災の影響で今後の開催に関しては慎重に検討を重ねた結果、平成24年度は青森県での開催となった。

児童交流事業への参加児童の負担金は無いが、今後継続して事業を進めていくにあたり、個人負担金の徴収について検討していく必要がある。

2. 生涯学習の充実（生涯学習課）

① 生涯学習の推進

* 事業概要

各種講座・教室・事業を通じて、町民が学習する機会を提供する。

長谷川さち子ピアノリサイタル、映画鑑賞会、生涯学習フェスティバル、成人式、南部学等が開催された。

* 成 果 [評価 3]

【南部学講座】

・富士川水系の発電用水利開発

講師 川島文男先生

第1日 7月26日（火） 15名参加

第2日 7月28日（木） 27名参加

* 課 題

南部町の先人が紡いできた歴史・文化・豊かな自然を共に学び、理解していく目的で「南部学」講座をはじめ様々な角度から南部町を学んできました。今後、より一層の我が南部町を学んでいきたい。

② 青少年教育の推進

* 事業概要

青少年の人間形成において家庭の果たす役割は大きく、特に核家族化が進みつつある現在、個としての家庭では、その役割の発揮に限界があり、地域の皆で支えあって青少年の教育や社会問題の解決に取り組まなければならないと考え、少年期から青年期にかけ、少しでも社会参加活動への機会を多くもたせたくましい人間を育てる。

* 成 果 [評価 3]

子どもクラブ連合育成会ではアルカディアスポーツフェスタにてキンボール大会を開催し体力の向上を図る。1月に新春書道展を開催した。

高校生保護者会では子どもの夏休み中に町内4地区において「愛のパトロール」を実施し青少年の健全育成に努めている。

町民会議では町をはじめ関係機関や団体と緊密に連携して育成活動に取り組んでいる。7月に親子映画会・夏季生活指導連絡協議会・アルカディアスポーツフェスタ、11月にピアノリサイタル、12月に冬季生活指導連絡協議会を開催した。

* 課 題

地域ぐるみで、家庭・学校・地域がそれぞれの在り方や役割を認識し、緊密に連携しながら、「たくましく心豊かな青少年健全育成」のための努力が必要である。

③ 高齢者教育の推進

* 事業概要

高齢社会においては、高齢者が経済社会の変化に対応していくために絶えず新たな知識や技術を習得する機会が必要とされる。また、学習を通じての豊かさや生きがい充足が求められることから、積極的な社会参加を果たすことができるような学習と活動の機会と場を提供し、高齢者教育の振興を図る。

* 成 果 [評価 4]

なんぶいきいき大学では健康づくりや生活に密着したテーマなどにより、歌を歌ったり身体を動かしたり楽しく参加できる講義を開講した。また、個人の趣味を広げるためのクラブ活動などを通して、仲間づくりの輪を広げている。

【なんぶいきいき大学】

学習会	月 日	内 容	場所
第1回	5月31日(火)	『開講式と町長講話』 南部町長 佐野和広 氏	活性化センター
第2回	6月24日(金)	『二世代育児のススメ』 家族カウンセラー 宮本まき子 氏	ぴゅあ峡南
第3回	7月14日(木)	『探検！南部中学校』 イキイキ大学生、新中学校ヲ訪問ス	南部中学校
第4回	8月26日(金)	『心身そうかい生活』 野呂瀬 秀 氏	ぴゅあ峡南
第5回	9月15日(木)	『体の健康・心の健康2』 医療センター所長 市川万邦 医師	文化ホール
第6回	10月11日(火) 10月13日(木)	『町 外 研 修』 葦山反射炉・柿田川湧水群 他	静岡県東部
第7回	11月17日(木)	『交通安全教室』 専門交通指導員峡南ブロック会	活性化センター
第8回	12月 8 日(木)	『実践！健康づくり』 理学療法士 金森永次 氏	活性化センター
第9回	1月26日(木)	『楽しく歌いましょう』 音楽療法士 安尾瑞子 氏	ぴゅあ峡南
第10回	2月16日(木)	『閉講式と春まちコンサート』 リードアンサンブル ♪ミュール♪	文化ホール

* 課 題

高齢化が進む中、高齢者の社会参加が少なくなっている。高齢者世代の趣味も日々変わってきているためニーズにあったテーマを考えていかなければならない。

3. 文化の振興（生涯学習課）

① 文化財保護事業

* 事業概要

文化財は地域の歴史や文化の成り立ちを理解するうえで、欠くことのできない資産である。現在、国指定 1 件、県指定 18 件、町指定 49 件の指定を受けており、文化財審議会委員を中心に書跡や史跡また天然記念物の保護、並びに無形文化財の継承に努める。

* 成 果 [評価 4]

国の重要文化財である最恩寺南側壁について、県学術文化財課と立会い、補修については協議中である。

また、台風被害により県指定顕本寺のオハツキイチョウ・町指定のヒノキの枝が折れ伐採・保護に努めた。

* 課 題

担当職員が専従でないため文化財の現況把握が十分できなかった。所有者・管理者・周辺住民等との協力体制を強化し現況把握に努めていく。

②文化協会等育成事業

* 事業概要

現在の南部町文化協会は、南部・富沢両地区の文化協会からなり、それぞれに事業を行なっている。合併して以来の懸案、両地区の協会が早期に一本化できるように、交流の機会を提供することを目標にして活動を計画していく。

両地区を通じて実施される南部町文化祭は、相互の情報交換、交流の場の確保という面で大変重要な事業となっている。文化協会補助金として、町から 240 万円が支出される。

* 成 果 [評価 4]

平成 23 年度は「創りだそう くらしの中に 輝きを」をキャッチフレーズに、南部地区・富沢地区ともに、交流を深めながら活動を進めてきた。文化祭芸能発表では各地区の隔てなく 31 団体の出演があり、地域間の交流と連携をさらに深めることができた。

* 課 題

二つの地区協会の一本化を目指しながらの活動をしているが、組織の構成・運営方法の違いから、なかなか次の一步を踏み出せない。

4. 総合会館・公民館・文化ホール（生涯学習課）

① 各種教室、講座等の主催事業

* 事業概要

中央公民館では、町民を対象とした公民館講座・各種教室を年間を通して開催している。

【夏の講座】

教 室 名		時期・回数	受講者数	受講者延数
陶 芸 教 室	午前	月 1 回 (10 回)	7 人	51 人
	午後		9 人	56 人
	夜		7 人	38 人
パソコン教室	W初	週 2 回 (4 回)	24 人	90 人
	W中		20 人	66 人
	E初		19 人	60 人
	E中		17 人	53 人
パン作り教室	初級	月 1 回 (6 回)	19 人	105 人
	中級		19 人	109 人
エコクラフト教室		月 2 回 (10 回)	5 人	41 人
絵 手 紙 教 室		隔週 1 回 (10 回)	4 人	33 人
健 康 ヨ ガ 教 室		隔週 1 回 (10 回)	13 人	72 人
つ る し 雛 教 室		月 2 回 (7 回)	10 人	63 人
パッチワーク教室		月 2 回 (10 回)	3 人	28 人

【秋の講座】

教 室 名		時期・回数	受講者数	受講者延数
金 属 工 芸 教 室		週 1 回 (5 回)	7 人	35 人
手 話 教 室		週 1 回 (10 回)	9 人	73 人
歴 史 探 訪 講 座		9 月 29 日 (1 回)	24 人	24 人

【冬・春の講座】

教 室 名		時期・回数	受講者数	受講者延数
ソーセージ作り教室		2 月 21 日 (1 回)	20 人	20 人
お 菓 子 作 り 教 室		3 月 1 日 (1 回)	12 人	12 人
そ ば 打 ち 教 室		3 月 3 日 (1 回)	13 人	13 人
手 話 教 室 2		週 1 回 (6 回)	13 人	73 人
立 体 書 画 教 室		3 月 5・6 日 (2 回)	7 人	11 人
春休みお菓子作り教室		3 月 28 日 (1 回)	13 人	13 人

* 成 果 [評価 3]

各種事業、生きがいづくりへの導入として、また、住民の学習意欲の向上が図られている。

* 課 題

教室のマンネリ化、受講者の固定化。

② 南部町文化ホール事業

* 事業概要

芸術文化に関する住民の意識の啓発、教養の向上を目的とし、南部寄席、親と子の映画会、中島啓江コンサート、南部合唱のつどい、宮廷音楽への招待状などの自主事業を実施した。

また、地域社会の振興に寄与するため、南部町民文化祭、内船歌舞伎の定例公演、長谷川さち子リサイタルコンサート等へ協力し、その他ホールの貸出等を行っている。

【自主事業】

事業名	開催日	入場数	販売収入額
宮廷音楽への招待状	6月11日	120人	—
親と子の映画会「武士の家計簿」他	7月2日	244人	58,100円
中島啓江コンサート	10月16日	205人	398,000円
合唱のつどい	11月12日	327人	—
なんぶ寄席「林家正蔵」他	12月18日	187人	374,000円
計		1,083人	830,100円

平成23年度自主事業決算：販売収入額 830,100円 企画料 2,863,000円

【有料貸館事業】

事業名	開催日	入場数	使用料
ピアノ教室発表会（2回）	5月22日他	388人	44,400円

【貸館事業】

事業名	開催日	入場数	使用料
町民文化祭（芸能発表会）	10月30日	633人	無料
長谷川さち子リサイタル	11月26日	110人	無料
内船歌舞伎定期公演	12月4日	390人	無料
南部町カラオケ発表会	2月26日	100人	無料
文化講演会 他 15事業	11月19日他	3,142人	無料
計	全18回	4,375人	—

* 成果 [評価 3]

少子高齢化が進む中で、無料公演を含む5企画の自主事業を実施し、多くの集客ができた。貸館事業に関しても、ピアノ教室発表会等、利用後の満足度を声にする利用が増え、地域社会の振興に寄与することができた。

* 課題

南部寄席、映画会での集客数が少なく、事業がマンネリ化しているように感じられる。しかし、駐車場の台数が少ないこと、周知徹底の未熟さなどを指摘されている部分があるため、まずは指摘された問題点について改善を検討し、駐車場の配置図の記載及び、アンケートの収集を行い、持続した企画事業で成果を上げることが当面の課題といえる。

5. アルカディア文化館（生涯学習課）

(1) 南部図書館・富沢図書館

* 事業概要

地域の情報拠点、学習の拠点となる図書館は、町民の学習要求の多様化、高度化に伴い、一般書はもとより専門書、学術書、地域資料、更には公共図書館と学校図書館を結ぶネットワークの活用を図り、学習にあった多種多様な資料の収集及び提供を目的とする。

[南部図書館]

○開館日数：287日

○来館者数：24,782人

○貸し出し冊数：53,713冊

○主催教室事業

・乳幼児・幼児・高齢者お話し会・リトミック教室等

開催回数：78回

参加者数：1,872人

・お話し会・読書指導（小学生対象）

[富沢図書館]

* 事業概要

○開館日数：282日

○来館者数：5,948人

○貸し出し冊数：20,300冊

○主催教室事業

・乳幼児・幼児・高齢者お話し会・リトミック教室等

開催回数：38回

参加者数：773人

・お話し会・読書指導（小学生対象）

開催回数：19回（万沢小、富河小児童対象）

参加者数：300人

* 成果 [評価 3]

乳幼児を持つ親子並びに小学生を対象にしたお話し会や工作、手遊び、映画会等を図書館ボランティアの協力を得ながら開催しているため、読書活動に対する効果は上がっている。

* 課題

住民の読書支持率向上のための方策を検討していく。

* 方策

利用者のニーズにあった本を提供するため、リクエスト等の情報の収集に努める。

(2) 町立美術館

* 事業概要

目 的：町民が歴史と文化に興味を持ち、芸術向上の場として親しみやすい美術館運営を考慮し、郷土が誇る芸術家「近藤浩一路」の功績を大切に美術館の発展に努めることを目的とする。

事 業

○開館日数：287日

○企画展

区 分	期 間	入場者数
芝 山 勇 夫 絵 画 展	6月26日～7月18日	699人
文化協会富沢地区写真部写真展	9月10日～9月25日	150人
望 月 弘 明 切 り 絵 展	10月1日～10月30日	550人
近 藤 正 寛 写 真 展	11月1日～11月27日	600人
渡 辺 修 孝 絵 画 展	12月4日～12月25日	1,500人

○常設展

区 分	期 間	入場者数
近 藤 浩 一 路 作 品 展	年2回展示換え(通年)	423人

* 成 果 [評価 3]

利用者を主眼に置いた美術館づくりで、前年度より集客数は増加している。

* 課 題

美術館評価として重要な位置づけを示す収集及び保存について、検討が必要である。

* 方 策

美術品作品等良い状態で保存するための環境整備。

6. 生涯スポーツの充実（生涯スポーツ課）

(1) 施設の充実と効果的な活用

① アルカディアスポーツセンター

* 事業概要

○営業日数：307日

○入館者数：32,730人	人数	収入金額
内訳 プール・ジム	15,174人	(4,757,100円)
※レッスン	11,189人	(4,339,200円)
体育館	6,367人	(587,700円)
		9,674,000円

○その他施設：40,534人	人数	収入金額
内訳 テニスコート	3,316人	(290,150円)
野球場	4,576人	(436,000円)
運動場	4,816人	(86,350円)
富沢野球場	4,714人	(264,000円)
小中学校施設	21,504人	(649,200円)
柔剣道場	1,608人	(93,200円)
		1,818,900円

○スポーツセンター玄関前使用敷石 販売 3月11日(日)実施

内訳 敷石1枚 (45cm×30cm×7cm 重さ20kg) [200円]
売却枚数2,325枚 売却額 465,000円

○主催教室事業

レ ス ソ ン 名	開催日	開催回数	参加延人数
親 子 幼 児 体 操	火曜日	44回	217人
シニアトレーニング		44回	209人
ステップ&コンディショニング(夜)		40回	462人
水中ウォーキング(夜)		40回	222人
バランスボール(夜)		40回	306人
ボ デ ィ デ ザ イ ン	水曜日	44回	180人
シニアトレーニング		44回	226人
大 人 ク ロ ー ル		44回	87人
大 人 平 泳 ぎ		44回	123人
シェイプアップエアロ(夜)		39回	293人
トレーニング教室(夜)		36回	209人
ダイエット教室(夜)		7回	39人
アクアエクササイズ(夜)		7回	11人
ヒップホップダンス教室		3回	18人
ママのためのフィットネス		3回	10人

水中ウォーキング	木曜日	44 回	203 人
シニアトレーニング		44 回	226 人
シェイプアップエアロ		43 回	206 人
フラダンス（初級）（夜）		38 回	461 人
フラダンス（中級）（夜）		38 回	441 人
初めてのヨガ（夜）	金曜日	40 回	342 人
リラックスヨガ（夜）		40 回	457 人
バランスボール		22 回	39 人
ジュニア水泳教室（夜）		44 回	310 人
水 泳 教 室	火・水・木	132 回	5,522 人
年 中 水 泳 教 室	火・水	88 回	370 人
計			11,189 人

○共催教室事業（福祉保健課主催）

メタボ体操教室

教 室 名	開催日	開催回数	参加者数	参加延人数
チームダイエット南部(2クール)	金曜日	30 回	16 人	181 人

*** 成 果 [評価 3]**

レッスンルームの改修により、教室事業は定着しつつあるが、今後も利用者のニーズにあった新規教室を企画開催していきたい。

*** 課 題**

昨年に比べ僅かであるが利用者数は増加しているが、会員者数が減少している。特に町内の会員者が減少傾向にあるため、施設のPRはもちろん、イベント等を開催企画し、町民の利用促進を図りたい。

②その他施設

*** 事業概要**

社会体育施設・学校体育施設の開放は、各体協支部、体協専門部、クラブチームの多数に利用されている。平成23年度の収入額は、東日本大震災の影響による節電対策により、利用できない期間を設けたため前年比11.2%減であった。なお、比例して、電気料金も減少している。

*** 成 果 [評価 4]**

体育館・グラウンドとも年間通しての利用があり有効に利用が図られている。特に体協専門部、スポーツ少年団、クラブチームの利用が多い。また、夏季には県外チームの合宿として利用されている。

*** 課 題**

照明や安定器をはじめとする設備の老朽化が目立つ。節電対策と施設の利用促進を総合的に推進できるよう効果的な利用を図る。また、ゴミの持ち帰りの徹底等、利用者のマナーの改善を促す必要がある。

(2) スポーツグループの育成とスポーツの生活化

① 体育指導委員事業（※H24 よりスポーツ推進委員に名称変更）

* 事業概要

目 的：町民にスポーツの楽しさ、すばらしさを伝えるとともに、スポーツやレクリエーションの普及振興を図るための指導・助言を行う。

事業費：600 千円（体育指導委員会補助金）

事 業：1) 軽スポーツ普及事業

トランポリン教室（1 1 回）、キンボール教室（2 回）

2) 各種スポーツ大会への協力

アルカディアスポーツフェスタ、町民体育祭、駅伝大会

3) 各種研修

定例会（5 回）、県外研修、峡南研修（2 回）、県研修（2 回）

* 成 果 [評価 4]

本町の体育指導委員 24 名は町民に対し積極的にスポーツの普及振興に努めた。中でもトランポリンクラブにおいては、会員の子供たちに親切丁寧に指導することができた。また、駅伝大会では、スムーズな大会運営に努めた。

* 課 題

各種の行事に出役するには難しい職種で、出席率の低い体育指導委員も見受けられたので、出席率の向上を図る。

② スポーツグループ育成事業

* 事業概要

目 的：町民のスポーツ実施率の向上とスポーツの日常化を目指し、軽スポーツグループの育成を図る。

事 業：「南部リズム会」は平成 18 年度から自主団体として活動し、毎月 1 回リズム体操教室を開催している。会員は年度末現在 82 名。「南部トランポリンクラブ」は平成 21 年 6 月に設立し、体育指導委員が中心となって毎月 1 回子供たちにトランポリンの他、軽スポーツを指導している。会員は年度末現在年長から小学校 3 年生まで 48 名。「南部ウォーキングクラブ」は平成 21 年 6 月に設立し、毎月 1 回、町内外のウォーキングを開催している。会員は年度末現在 53 名。

* 成 果 [評価 5]

南部リズム会は設立から 6 年が経ち町民の中に定着してきた。南部ウォーキングクラブとともに 50 歳から 70 歳までの婦人層が中心で生活習慣病予防、体力づくりのほか会員の憩いの場として役割を果たしている。南部トランポリンクラブは神経系の発達が著しい年齢層の子供達を対象に実施し、子どもの体力向上に貢献している。

* 課 題

それぞれのグループとも町民の認知度が上がり、活動も活発になり会員も増加している。なお一層の啓発や事業の推進を図り、スポーツを積極的にしない町民の取り込みを図る。また、会員自身が主体的に活動し、運営していく体制を整えていく。

③ スポーツ教室・イベントの開催

* 事業概要

目 的：スポーツを振興し、町民の体力増進・健康を保持するとともに、人と人とのふれあいを育むコミュニティの場として、誰でも楽しめる軽スポーツを中心に教室を開催する。

事業費：教室謝金 308 千円、フェスタ 200 千円、サンクスデー140 千円

事 業：1) 各種教室の開催

教 室 名	開催日	開催回数	参加延人数
ト ラ ン ポ リ ン 教 室	月 2 回	21 回	634 人
キ ン ボ ー ル 教 室	6 月 17 日 20 日	2 回	128 人
ジュニアゴルフ教室	夏休み期間	4 回	20 人
カ ヌ ー 教 室	〃	2 回	14 人
親子テニス教室（雨天2回中止）	〃	1 回	11 人
ジュニアバレーボール教室	〃	3 回	48 人
弓 道 教 室	〃	14 回	70 人
和 太 鼓 教 室	〃	3 回	30 人
体操教室 信田美帆先生	6 月 11 日	1 回	44 人
武道(柔道)教室 鳥居智男先生	10 月 22 日	1 回	39 人
スキー教室 しらかば2 in 1	2 月 19 日	1 回	133 人
ウ ォ ー キ ン グ 教 室	5 月～3 月	11 回	330 人
リズム会 飯田忠子先生	4 月～3 月	12 回	584 人
計			2,085 人

2) スポーツイベント

イ ベ ン ト 名	開催日	参加人数
ヴァンフォーレ甲府 サンクスデー	5 月 3 日	297 人
アルカディアスポーツフェスタ 2011	7 月 24 日	500 人

* 成 果 [評価 4]

日頃からスポーツの体験ができない方に対してのきっかけづくりとして大きな効果があり、各教室とも多くの初心者参加があった。また、フェスタでは、育成会対抗のキンボール大会が盛大に開催されるとともに、プール無料開放のほか、普段見ることのできない日本トップクラスの選手によるトランポリン演技を見ることができ、参加者からの評判が良かった。

* 課 題

種目を固定化するのではなく、町民のニーズにあったスポーツやニュースポーツイベント教室を開催する。広くスポーツの楽しさやすばらしさを啓発するため、フェスタ・サンクスデーは継続して開催する。

(3) 組織の充実と連携

① 体育協会

* 事業概要

目 的：生涯スポーツを推進するには体育協会との町行政とが緊密な連携を図る必要がある。

事 業：体育協会は25支部、16専門部、8スポ少から組織され、教育委員会生涯スポーツ課が、庶務会計を担当しスポーツ振興を図っている。競技スポーツとしての一面と生涯スポーツの一面を有し、県体育祭への出場、町民体育祭・駅伝大会の開催、各種スポーツ教室の開催を年間事業としている。特に初心者を対象にしたスポーツ教室では各種目の普及を目指し尽力している。行政とも緊密な連携と協力体制が図られている。

事業費： 4,800 千円 （体育協会補助金）

事 業 名	開催日	参加人数
第9回南部町民体育祭 24支部参加	10月9日	1,200人
第9回南部町駅伝大会 61チーム参加	1月22日	305人

* 成 果 [評価 4]

町と体育協会の連携が図られスポーツ事業が実施されている。特に町民体育祭・駅伝大会は町の一大行事として位置づけられている。

* 課 題

部員の減少等により活動が減少している専門部には、新規部員の取り込みのための教室を開催する。また、体協支部でグラウンドゴルフなどの軽スポーツ教室を開催する場合は専門指導者ができる限り協力しスポーツの普及を図る。教室開催にあっては、町民のニーズにあった種目を開催する。

② 総合型地域スポーツクラブの育成

* 事業概要

目 的：スポーツ実施率を向上させるため、多世代・多種目・多嗜好を実現した組織として、スポーツ振興基本計画やスポーツ立国戦略では総合型地域スポーツクラブの設立を掲げている。町でもクラブ設立を目指し、「南部町総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会」を組織した。

事 業：会議を開催し備品等整備を行った。

事業費：200 千円（設立準備委員会補助金）

*** 成 果 [評価 3]**

総合型地域スポーツクラブ設立について、町の現状、町民のニーズ、県内各町の状況をもとに協議した。年間を通じ、山梨県広域スポーツセンター並びにスポーツ健康課の指導を受けて事業推進に取り組んでいる。

*** 課 題**

23年度までに県内でも多くの市町村でクラブの設立がされている状況にあつては、本町でも、特色あるクラブの設立を検討する必要がある。